

CTMA

(Clipping Tissue Micro Array) は弊社が開発した新しい研究用病理技術です。

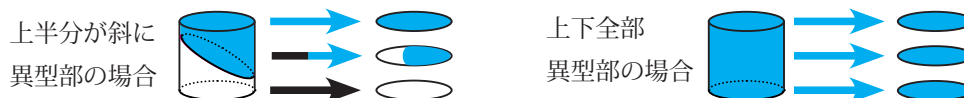
「TMA (Tissue Micro Array) を各種研究に使いたい」というみなさんは多いと感じております。

TMA を皆さんはどうやって入手し、利用されていますでしょうか？

- ▷ A) 研究に利用する疾患を対象としたパネルの TMA スライドを調査して購入。
- ▶ B) 所有または購入組織包埋ブロック (以下「ブロック」と記載) から TMA を作製 (外注)

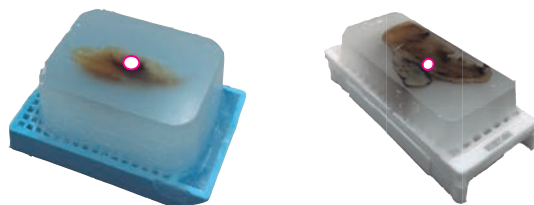
「A」の課題：全部のコアで表面 (上) と内部 (中下) の組織構造が同じか確認できない=全コアで同じ検討が継続できるわけではない。

- ▷ 同一 lot の TMA スライドであっても全コアの上下で同じ組織像が得られるでしょうか？

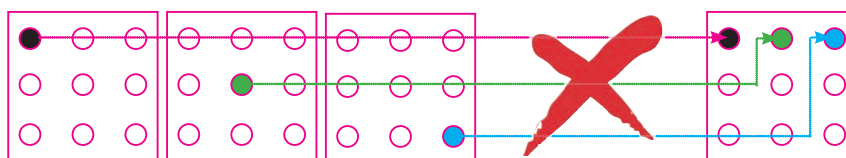


「B」の課題：臨床材料 (市販品等)、PDX (Patient Derived Tumor Xenograft) mouse ブロック、ヒト化 mouse ブロック

- ▶ TMA 化すると、貴重な「元のブロック」または「別研究に重要な組織部位」に穴が空いてしまいます。



- ▶ 「TMA ブロック A の X 番目のコア」と「TMA ブロック B の Y 番目のコア」「TMA ブロック C の Z コア」の組織を再度組み合わせて TMA ブロックを再作製することはできません。



そこで・・・CTMA が皆さんの研究の一助になります。

世の中には似たような技術がありますが、当社の技術は違います。

- ① 元ブロックに TMA 作製時の様な「穴」は残りません (穴は空きません)。
- ② 薄切組織切片 1 枚から円状の Clipping (切り抜き) 組織をスライドガラスに整然と貼付可能です。
- ③ Clipping のコアはスライド上に自由に再配列させることが可能です。
- ④ ブロック表面の最新の組織情報を得てから Clipping 可能です=事前に組織構造を確認できます。
- ⑤ 貼付された CTMA 組織は顕微鏡下で組織構造を確認できます。

こんな技術を見たこと、経験したことはありますか。

詳細は「裏ページ」を御覧ください。

株式会社 新組織科学研究所

<http://www.hslabo.co.jp/>

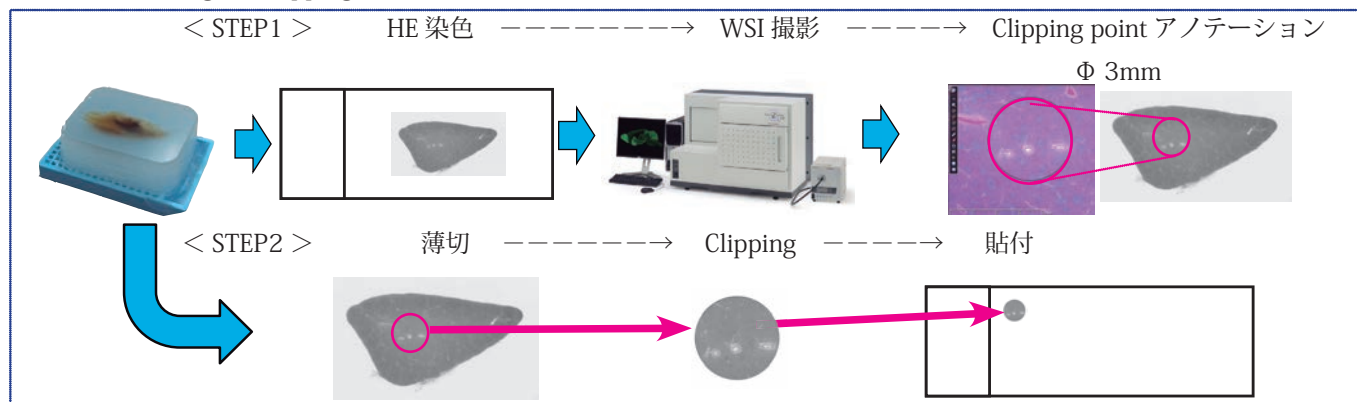
ご注意：

本案内のサービスおよび装置仕様はサービス受託の際に変更される場合があります。詳しくは、お問い合わせいただくか、当社 HP 情報にてご確認ください。

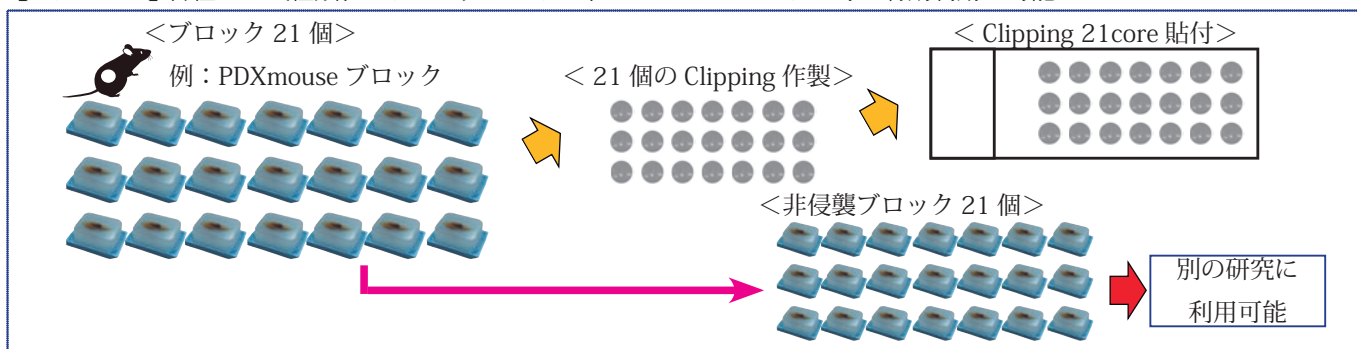
CTMA とは

直径 3mm の組織をスライドガラス上に最大 21 個 (core) 整然と貼付し、TMA like な標本を作製することができる技術です。

【イメージ 1】Original Clipping 技術

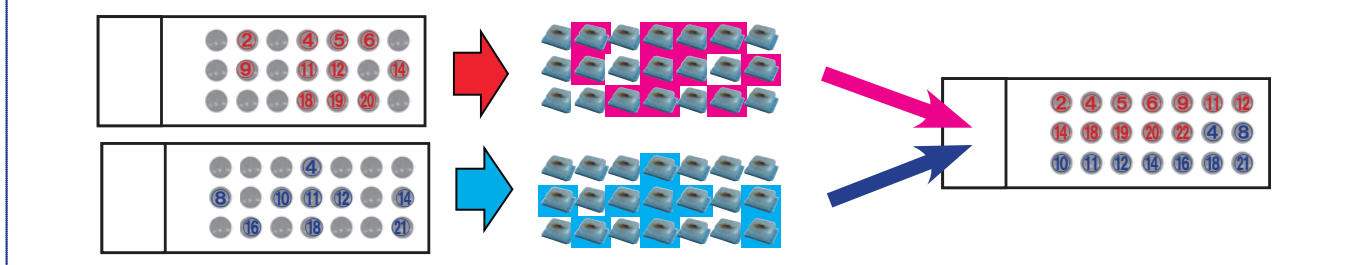


【イメージ 2】各種がん (種類、ステージ) ブロック、PDXmouse ブロック等の有効利用が可能



【イメージ 3】CTMA の core の入れ替えが自由に設計可能

TMA は core の入れ替えは困難 (不可能) ですが、CTMA は元のブロックが非侵襲で残されているので “Clipping” を作製することで自由な TMA like のスライドが作製可能です。



CTMA は貴重な病理組織ブロック (がん種 or ステージ、PDXmouse 組織) を効率よく有効利用できると考えています。

- 多種多様なバイオマーカー研究
- Precision Medicine 研究: CDx、早期診断
- 一度に多くの組織染色が可能 (IHC、ISH、特殊染色、etc)